

～ 【 期末テスト終了 】 ～

今日で期末テストが終わりました。教科によってはさっそく来週の月曜日から答案用紙の返却、解答が始まると思います。1, 2年生の皆さん、いかがでしたか。学年最後のテストの手応えはどうだったでしょうか。

生徒がテストを受けている様子を見に教室を回りました。年度も終わりに近づき、教室の雰囲気は1年前とは大きく様変わりし、1年生は2年生の、2年生は3年生の雰囲気を漂わせています。生徒一人一人が心身ともに成長してきた証です。



いくつかの教室でテストの最中にもかかわらず机に伏せて、目を閉じている(寝ている?)生徒が数人いました。これが一昔前でしたら「こら!起きろ!」と怒鳴っていましたが、私が歳を取ったせいか、「テストの最中に目を閉じて、終わりのチャイムをじっと待つのもつらいだろうな。」と思うようになりました。

教室に入り、その生徒達の答案用紙をチラッと見てみると、何か所かは答えを書いていましたが、空欄が残っていました。

精一杯考えたのでしようが、それ以上は書けない。書けないから手持ち無沙汰になり周りの様子をきよるきよる伺おうものならカンニングを疑われる。それならもう目を閉じて伏せておくしかない。そういう状況だと思えます。

「俺は(私は)好きで伏せているのではない!」という、声にならない声とその背中から聞こえるような気がしました。こんな時に「起きてがんばれ。」の声かけがいかに空しいことか。声をかけられても、子ども達は「これ以上がんばれません。」と答えるしかないでしょう。

しかし、だからといってこのままではどうしようもできません。先日の「麗気烈風」に書きましたように、学ぶためには「啐啄同時」でなければなりません。

学ぼうとする気持ち、教えようとする気持ちが一致しなければ、学びは決して成り立ちません。

鹿南中の先生方は教える気満々です。「分かりません。」「分かるようになりたいです。」「教えてください。」「時間にして1秒足らずのこの言葉を発するだけで、先生方はいくらでも教えてくれます。

しかし、その前に絶対に捨ててもらわねばならないものがあります。

～ 【 フライドと素直さ 】 ～

勉強が本当に分かりたいと思うなら、その前に捨てるべきものが一つ、そして持つべきものが一つです。

捨てるべきものとは何か。プライドです。勉強が遅れているから恥ずかしい。放課後に残されるのは恥ずかしい。特に本当に分かるようになるためには、中3でさえ時には小学校の教科書にさかのぼって復習しなくてはなりません。そんな自分をまず自分自身が受け入れなくてはなりません。

もちろん放課後に残って勉強に頑張っている友達をあざ笑うような生徒は、この鹿南中には一人もいません。そう信じています。しかしそれ以前に自分が自分をあざ笑っていたらもうこれ以上どうにも進めないのです。

何度も書きます。社会人になって「学生時代は勉強していませんから。」と言わなければならない悲しさ、悔しさに比べたら、中学生の今、「分かりません。」「教えてください。」ということがどれほど楽なことか。

残されるのはカッコ悪い? 「分かりません。分かるまで教えてください。」と先生に食らいつく姿はむしろカッコいいと思います。本当にカッコ悪いのは、分かりたいのに分かったふりをして毎日無駄にし、そのうちいつの間にか高校入試を迎え、どこから手をつければよいのかわからず、途方に暮れている姿がカッコ悪いと、私は思いますが。

分かりたいならプライドを捨てる。

次に持つべきもの。言うまでもありません。素直さ、これに尽きます。先生が、この問題を解いて、この語句を練習して、この年代を暗記して等指示することを素直に実行すること。

問題を解き、それが正解だったら心の底から「やったー!できた!」と素直に喜ぶこと。

そして、先生から「放課後勉強しようか。」と言われたら、「はい。」と素直に言えること。

素直になるためには、いかに自分の身の周りの人たちが自分を応援してくれているか気づき、素直に「ありがとう。」と言えるようにならなければなりません。

テストが終わり部活もないこれからの2週間、来年に、いや未来に向けて自分を大改造するチャンスです。啐啄同時。次は自分の殻を破る番です。

